

研修 NOW!

新設講座等 紹介します!!

ここで紹介するのは一部の講座ですが、どの講座においても、和やかな雰囲気の中で、受講者同士が、受講者と講師とが、いきいきとした表情で関わりながら学ぶ姿が印象的です。先生方が主体的に学び続ける姿は、子どもたちにとって重要なロールモデルとなるはずです。

New

対話力向上研修～わくわくエンジン発見～

認定 NPO 法人キーパーソン 21 の講師の方から、誰の中にもある『わくわくエンジン』の引き出し方を、体験を交えてレクチャーいただきました。対話の土台「引き出す、認める、伴走する」を学びました。



《受講者の声》

たくさんの教員がこの研修を受けて子どもをサポートできる状態になれば、教師と子どもとの距離も近付くのではないかと思います。

New

子どもの問いと意欲を引き出す発問、はじめの一步

様々な発問の種類やその効果、使用場面について学びました。実際の活用例について情報交換をしたり、よりよい発問を考えるための発問づくりを体験したりしました。



《受講者の声》

先生方と交流しながらの実践がとても楽しかったです。小学校の先生方の考え方や取組を知る機会にもなり、深まりのある研修でした。

Renewal

算数、はじめの一步

演習や模擬授業を交えながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた基礎的な考え方や手立てについて学びました。また、日常の算数授業の悩みを共有し、解決へのヒントを出し合いました。



《受講者の声》

子どもたちが主体的に授業に参加できる方法、子どもたちが授業の中で「これが課題だ」と意識できる方法など、詳しく学ぶことができました。

New

対話上手育成、はじめの一步

グループやペア学習において、子ども自身がファシリテーターになって学習を進める方法を学びました。オープンクエスチョンやミラーリングする聞き方指導などを体験しました。



《受講者の声》

参考になったのはミラーリングや、マイクロディベート、発問の具体例を示すことです。学級会での話合いに改善の余地があると思っていたので、学級の重大な事案を決める前の練習として取り入れたいと思いました。



Q 授業づくりで大切にしてきたこと、大切にしていることは何ですか？

私は授業づくりにおいて「みんなが楽しく」「自分から」「自分でできること」を大切にしてきました。「楽しい」ことは「自分から」学ぶことにつながります。そして、「できる」ことも「楽しい」ことにつながります。子どもたちの「できた」「わかった」という笑顔は何事にも代えられない喜びです。そのために、授業の在り方や方法を常に模索していくことが教師にとって大切な仕事だと感じていました。また、授業における「楽しい」は「学習内容」「活動・体験」「関わり」（教師と・クラスメイトと・教材と）の楽しさもあります。こうしたことを確かなものにするために、安心して学べる状況にしておくことがとても大切です。授業での「ルールやマナーをしっかりと」「互いの信頼関係を常に更新」「みんなで授業をつくる」といったポイントを押さえ、目の前の子どもたちに何が適しているのか考え、様々なスタイルや方法を取り入れてきました。授業スタイルに固執しないよう新しくチャレンジすることに自分自身が楽しさを感じて実践してきました。

Q 授業者としてのターニングポイントを教えてください。

ターニングポイントは、何度もありました。例えば、若手と呼ばれているときです。今で言う学級崩壊している状態です。指示は通らず、授業も成立しにくい日々でした。先輩方から、「みんなが楽しく」「自分から」「自分でできる」授業をつくることから始めること、と助言いただきました。生徒指導と同時に授業づくりを一から学びました。教科にとらわれず様々な教科の研修に参加し、授業の追試を行いました。時間は掛かりましたが次第に落ち着いた関係となっていきました。こうしたことが何度かありました。今思うと子どもから教えてもらったことで成長できたと実感しています。多くの子どもの出会い、関わり、その一瞬一瞬がターニングポイントでした。

日々の授業の中で、つい子どもたちに責任を求めたり、周囲に責任を求めたりすることがあるかもしれません。しかし、授業を通して子どもと向き合っている教師にこそ、自らを高め続ける責任があると気付かせてもらったと感謝しています。

Q 道徳科の魅力は何ですか？

「道徳授業は苦手」「何をどうしたらいいのか、はっきりしない」「どんなにいいことを子どもたちが発言しても、目に見えてよくなるので無力感を覚える」と思っている先生方が多いようです。道徳授業はポイントさえ押さえれば、こんなにやり甲斐のある授業はないと思っています。それは道徳授業では、子どもの心に問い掛け、その心の変容に関わることができるからです。

さらに、道徳授業では、未来に向かって生きること、心と心が響き合うこと、そして、人のすばらしさ、自然の偉大さを教え、自分を含めた万物の魂の鼓動を力強く感じ取らせることができます。

道徳授業は、「よりよく生きるために他者理解と自分がどう在ったらいいか問い続ける授業」です。授業者の教育哲学を示す場面でもあります。それほどすばらしい道徳授業を、子どもはもちろん、教師自身もやり甲斐があると思えるようになってほしいと願っています。

Q 授業力向上を目指す若手教師へ伝えたいメッセージをお願いします。

教師は武者（六者）かな、と思います。教師の指導力については様々に語られています。私が若手の皆さんに求めたいのは「六者の力」です。教職にある皆さんは理解いただけるとと思います。これは、日々の教育活動で実は実際に行っていることなのです。それは「学者」「医者」「予言者（夢と希望を語る）」「作者（授業をつくり出す）」「経営者」「挑戦者」の六者です。

私たち教師は、学校で教育活動を担い、指導的立場にあります。その役割は、学問・技術を教授し、知識・学問・技能などを相手に身に付けさせるよう導かねばなりません。それが授業です。さらに、ものの道理や真実を相手に悟らせ、時には戒め、教訓を与えていきます。そして、未来を指し示しています。私たちの日々の全てを子どもたちに注いでいくもの、といっても過言ではないでしょう。ですから、私たちは常に知識をインプットし、自ら考え判断し凝縮し、子どもたちに示していきます。授業づくりは私たち教師の英知を結集した姿です。



Q 授業づくりで大切にしてきたこと、大切にしていることは何ですか？

私が、授業づくりで大切にしていることは、子どもたちが「分かった!」と目を輝かせ、考えることを「愉しむ」姿を引き出すことです。そのために、次の二つのことを心掛けています。

一つ目は、魅力ある教材を提示することです。問題を提示した際に、子どもたちに「面白そう」「考えてみたい」と思わせることをねらいます。そこから次第に数学的な世界にのめり込み、いつの間にか算数を愉んでいるという姿が理想です。例えば、数値を□で隠したり、ゲーム化したりするなど、教科書の問題に少しの工夫を加えるだけで、子どもたちの反応は変わってきます。

二つ目は、どの子にも「分かる」授業をするということです。たくさんつぶやく子どもは、算数が好きで得意な子どもが多いです。ただ、そのつぶやきだけで授業を進めてしまうと、算数が苦手な子どもは授業についていけません。大切なのは、そのつぶやきを授業者が拾って全体に広げ、共有することです。そこで私は、「○○さんの気持ちが分かる人はいますか?」と問うようにしています。また、一人の子どもの発言を他の子にも同じように説明させたり、「○○さんが言っていることを、もう一度お話してみよう」と、ペア対話の活動を取り入れたりしています。自分の言葉で話すことで、友達の考えが自分のものになります。聞いているだけではよく分からなかったことも、友達と話すことで思考が整理されたり、理解が深まったりします。また、「困っている友達に分かるように説明できる人はいるかな?」と、全員が納得するまで繰り返し説明させることもあります。

Q 授業力向上のためにどのように取り組んでいけばよいですか？

私自身が、授業力向上のために行っていることは、次の二つです。

一つ目は、たくさんの先生方の授業を参観することです。私は、校内だけでなく、校外や県外の研修会にも参加して、多くの先生方の授業を参観させていただいています。授業スタイルは先生方によって違うので、自分とは違う声の掛け方、立ち位置、働き掛け等があり、とても勉強になります。そして、すぐに自分の学級でも試してみて、自分に合っているか、児童の実態に合っているかななどを分析し、アレンジを加えながら取り入れます。そうすることで少しずつ、多様な指導法を増やしています。

二つ目は、自分の授業動画や板書を撮りためることです。普段の授業を動画に収めると、様々な自分の癖を見付けることができます。例えば、同じルートでしか机間指導をしていないことや、児童がよいつぶやきをしているのに拾えていないことなどです。自分自身の授業を見ることはとても苦しいですが、癖を自覚して改善することができるのでおすすめです。また、板書写真で授業を振り返ることも、板書の力の向上につながります。

Q 授業力向上を目指す若手教師へ伝えたいメッセージをお願いします。

教師が笑顔で愉しそうに授業をしていると、子どもたちも自然と笑顔になって学ぶことを「愉しい」と思うようになります。

私はかつて、学級経営で悩んだ時期がありました。授業も進度に合わせてただこなすだけ…そんな日々を送っていました。その当時は、私も子どもも授業が愉しいと感じるわけもなく、教室の雰囲気は悪くなる一方でした。そんなある日、私はハッとして、「子どもの大切な時間を無駄にしている」自分に気付いたのです。このことに気付けたのは、私の周りにいた素敵な尊敬すべき先輩方の存在があったからです。先輩方の姿を見て、まずは私自身が愉しいと思える授業をしようと考えを改めました。その頃から、子どもたちとの関係性もよくなっていったことを記憶しています。憧れの先輩を見付け、その先生のまねから入ることも、自分の授業力を向上させることにつながるのではないのでしょうか。



「新潟市マイスター一覧」は総合教育センターホームページからも参照できます。右のコードを読み取ってアクセスできます。



column 植物資料室

ハッカ（薄荷）：シソ科 ～爽やかな香りの在来ハーブ～

湿った場所に自生する多年草です。和種薄荷（Japanese Peppermint）と呼ばれ、全草に強い芳香があります。8～10月、葉の脇に輪状に多数の薄紅紫色の小花をつけます。花は花卉が唇形で先が4つに裂けています。

在来種のハッカは、江戸時代中頃より製薬用に栽培されてきました。昭和初期には、世界の生産量のほとんどが、メントールを多く含む日本のハッカでした。しかし、メントールが合成されるようになったため、ハッカの栽培は少なくなり、山麓などで自生が見られる程度になりました。

植物資料室のデータベースでは、各地から採集された51点のハッカのデータを公開しています。

ハッカの写真はこちらから→

総合教育センターホームページ内「植物資料室」ページ

（シリーズ〈四季折々の植物〉）



≪植物資料室から一言≫

NHKでは、牧野富太郎をモデルにした朝のテレビ小説「らんまん」が放送中です。この放送をきっかけに、植物の世界に興味をわいてきた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。植物資料室では、新潟県出身の植物研究家 故池上義信氏（元新潟南高等学校教諭）が中心となって採集・収集した約37万点の植物標本を収蔵し、その管理・保全を行っています。標本には、絶滅種や絶滅危惧種も含まれ、学術的な価値が高まっています。

総教 News

研修講座の随時募集について

随時募集対象の研修講座の受講希望がある場合は、実施日の1週間前までに以下の手続きをお願いします。対象は、ここに掲載している研修講座です。

- ① 校内に申込み希望者のいる管理職は、C4thの書庫にある「随時募集対象の研修講座申込み」に必要事項を記入する。
- ② 管理職は①をC4thの個人連絡で総合教育センター江口所長補佐へ送信する。

講座番号・講座名	期日	会場
53 幼児・児童創作活動研修	8月3日（木）	ゆいぽーと
57 国語科授業づくりC	8月30日（水）	オンライン
64 数学科授業づくりA	8月30日（水）	オンライン
65 算数科授業づくりB	10月23日（月）	総合教育センター
66 数学科授業づくりB	10月16日（月）	総合教育センター
67 理科、はじめの一步	11月29日（水）	総合教育センター
70 理科授業づくりA（小学校）	11月22日（水）	総合教育センター
71 理科授業づくりB（中学校）	10月25日（水）	総合教育センター
74 音楽科授業づくりA	9月15日（金）	オンライン

講座番号・講座名	期日	会場
82 技術科授業づくり	10月18日（水）	総合教育センター
84 外国語、はじめの一步	11月30日（木）	総合教育センター
91 国際理解教育の基礎的理解	9月15日（金）	総合教育センター
105 ICT活用研修Ⅰ②（初級）B	10月12日（木）	総合教育センター
106 ICT活用研修Ⅱ（中級）A ICT活用研修Ⅱ（中級）B	11月27日（月）	総合教育センター
	12月4日（月）	総合教育センター
108 教育データ活用研修	12月21日（木）	総合教育センター
109 校内研修推進の勤所研修（GIGA推進）	8月29日（火）	総合教育センター
134 養護教諭研修 C班	10月20日（金）	オンライン